

草津市自転車の利用に関する市民アンケート調査の結果について

1 目的

市民の自転車利用の実態や今後求められる取組等を把握するため。

2 調査対象および回答数

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| ①【無作為】18歳以上の市民 3,000人 | 有効回答 1,300人(43.3%) |
| ②【一般】自転車駐車場利用者・市ホームページ閲覧者 | 有効回答 56人 |
| ③【中学生】市内中学生約 4,300人 | 有効回答 33人 |

3 配布方法

- ①郵送(回収:郵送 744人、WEB 556人)
 ②自転車駐車場への配架、ホームページへの掲載(回収:WEB 56人)
 ③中学校生徒利用のタブレットへ配信(回収:WEB 56人)



4 実施期間

調査:令和7年12月17日から令和8年1月16日

5 アンケート内容

基本属性	<input type="radio"/> 年代 <input type="radio"/> 職業 <input type="radio"/> 性別 <input type="radio"/> 居住学区 <input type="radio"/> 普段の移動手段 <input type="radio"/> 所有自転車の種類 <input type="radio"/> 自転車の利用頻度
自転車利用の実態 (自転車利用者のみ)	<input type="radio"/> 理由 <input type="radio"/> 目的 <input type="radio"/> 利用時間 <input type="radio"/> 雨の日の状況 <input type="radio"/> 自転車ルール・道路交通法に対する意識 <input type="radio"/> ヘルメットの所持・着用状況 <input type="radio"/> 自転車保険の加入状況
自転車政策全般	<input type="radio"/> 自転車ルールの学びの場 <input type="radio"/> 自転車利用してもよい距離 <input type="radio"/> 自転車の不便な点 <input type="radio"/> 自転車利用促進に求める取組 <input type="radio"/> 交通安全促進に求める取組 <input type="radio"/> 自転車利用環境の満足度 <input type="radio"/> その他自由意見

※ ③の市内中学生用アンケートについては、一部質問を変更・省略しています。

6 集計の考え方について

割合については、各質問の有効回答数(=n)を分母として算出しています。

なお、複数回答を可能としているものについては、回答数の合計が有効回答数を超えることに留意が必要です。

7 アンケート結果まとめ(無作為)

自転車の利用割合・所有種別

・普段の移動手段として自転車を含んだ移動をする人は39.8%で、約5人に2人が自転車を普段使いしています。また、71.8%が何かしらの自転車を保有しており、その中でも一般車やシティサイクル、電動アシスト車といった普段使いの車両の所有率が78.6%となっています。

自転車の利用頻度

・48.8%が月に数回以上利用されており、41.5%がほとんど利用されていません。利用頻度について、性別や年齢による差はあまり見られませんでした。ただし、平日休日を問わずほぼ毎日利用する人については70歳代が最も多く、次いで80歳以上でした。

自転車を利用する理由

・「手軽に使える」が72.1%で最も多く、「早く移動できる」が45.6%、「健康に良い・運動不足解消」が38.6%、「環境にやさしい」が13.5%でした。

自転車の利用目的・利用時間

・自転車を利用する主な目的は、58.6%が日常的な生活圏内での利用、通勤・通学が24.8%、趣味・娯楽としての利用が8.1%でした。その目的のための自転車の片道の利用時間は、30分未満の利用が86.6%を占め、中でも5分以上15分未満の利用が49.2%でした。

雨の日の移動手段の変更

・雨の日でも20.6%が自転車を利用されますが、56.3%は自家用車に、36.6%は徒歩に変更されます。

自転車のルールを守ることの意識

・「意識している」「少しは意識している」との回答が94.8%を占め、大多数の人がルールを守ろうとしています。

令和8年4月からの自転車の取り締まり強化を知っているか

・80.7%が取り締まり強化を知っていました。年齢別でみると、50歳代以下が平均以下の認知率であり、特に20歳代と40歳代の認知率は70%を下回っていました。

ヘルメット所持率

・61.0%がヘルメットを持っていませんでした。年齢による大きな差はみられませんでした。50歳代以下の所有率が平均を下回っていました。

ヘルメット着用率

・「いつも着用している」は17.4%でした。年齢による大きな差はみられませんでした。まったく着用していないと回答した人は40歳代以下が少し多くなっています。

ヘルメットを着用しない理由

・48.6%が「面倒だから」着用しておらず、22.9%が「駐車場や移動先にヘルメット保管場所がないから」、19.5%が「金銭的負担が大きい」と回答しています。

損害賠償責任保険等加入率

・72.5%が保険に加入されていました。加入されていない人は70歳代が最も多く、次いで80歳以上でした。

自転車のルールの学習場所

・52.1%が小学校と中学校の義務教育期間中に自転車のルールを学んでいました。しかし、29.0%が学んだことがない（記憶にない）と回答されており、年代が高くなるにつれ学んだことがない人が多くなり、80歳代については55.4%が学んだことがないと回答されました。

何 km 先までなら自転車を利用しても良いと考えるか

・64.1%が5km までなら自転車を利用してもよいと考えています。

自転車利用時の不便に思う点や自転車を利用しない理由

・78.1%が雨天時に利用しにくいことを、37.5%が自転車の走行環境が整っていないことを不便に感じています。

自転車利用を促進するにはどのような取組が効果的だと思うか

・自転車通行空間の整備が63.3%で最も多く、ルール・マナーの周知が48.5%、鉄道駅やバス停付近の駐輪場の整備が31.8%でした。なお、レンタサイクル・シェアサイクルについては、充実することが利用促進に繋がると考えている人がそれぞれ約8%いました。

自転車の交通安全を促進するにはどのような取組が効果的だと思うか

・学校での交通安全教室が66.3%、自転車通行空間の整備が50.9%、自動車の違法駐車や自転車の無灯火など、交通違反に対する取締りが41.6%と高い回答でした。

駅周辺での自転車駐輪場整備の満足度

・「満足」「やや満足」が35.1%、「やや不満」「不満」が25.3%と、比較的満足されている人が多くなっています。

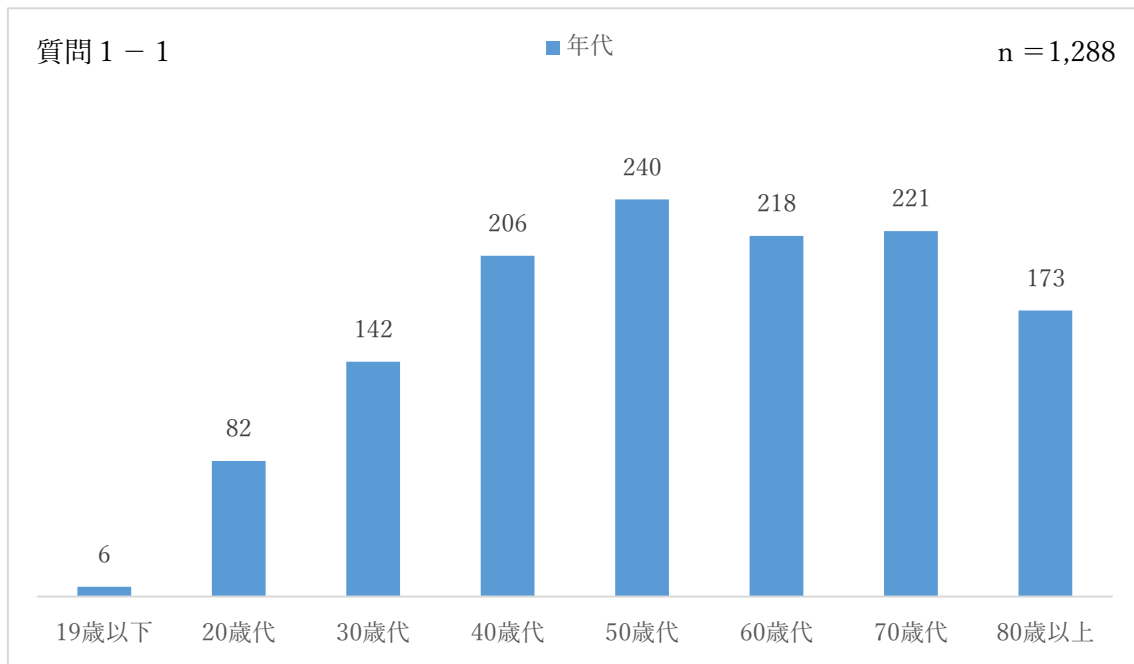
安全な自転車走行環境の整備の満足度

・「満足」「やや満足」が13.6%、「やや不満」「不満」が51.6%と、はっきりと不満を感じている人が多くなっています。居住学区（区）に回答の大きな差は見られませんでした。

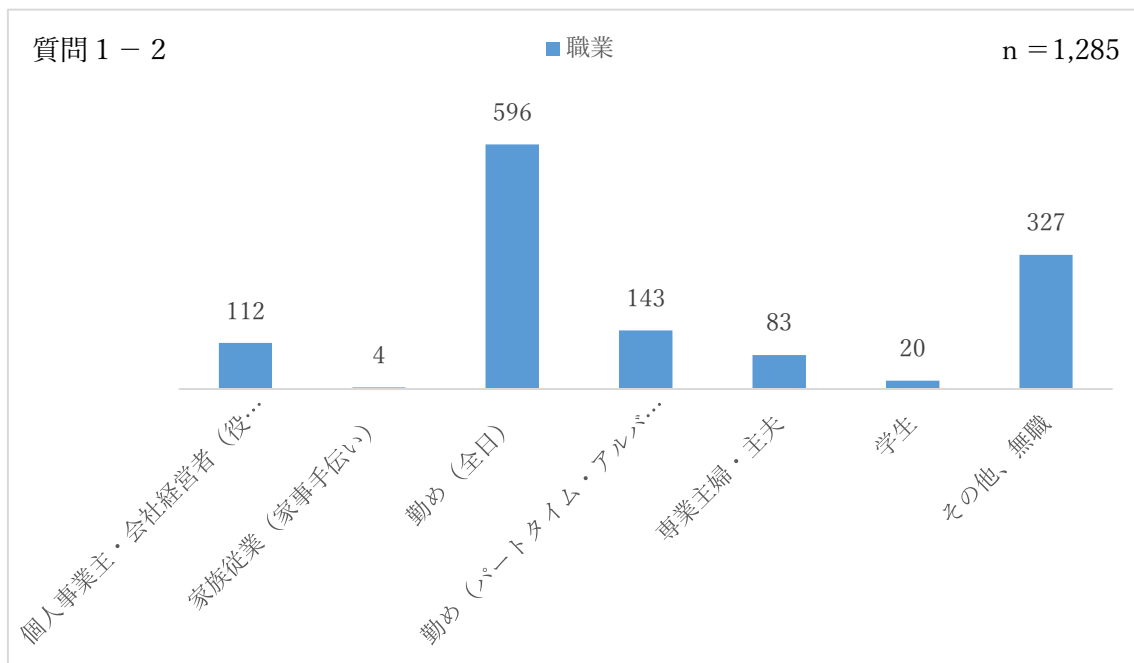
自転車利用者のマナーの満足度

・「満足」「やや満足」が10.3%、「やや不満」「不満」が61.5%と、満足度の中で最も不満度が高くなっています。

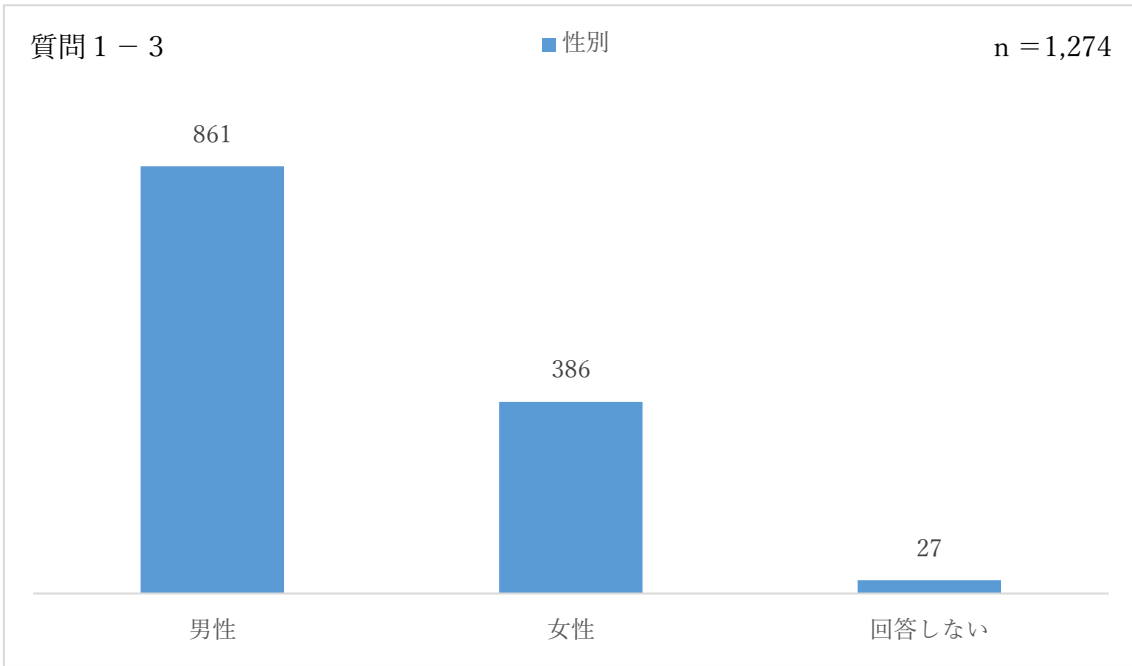
8 アンケート結果詳細(無作為)



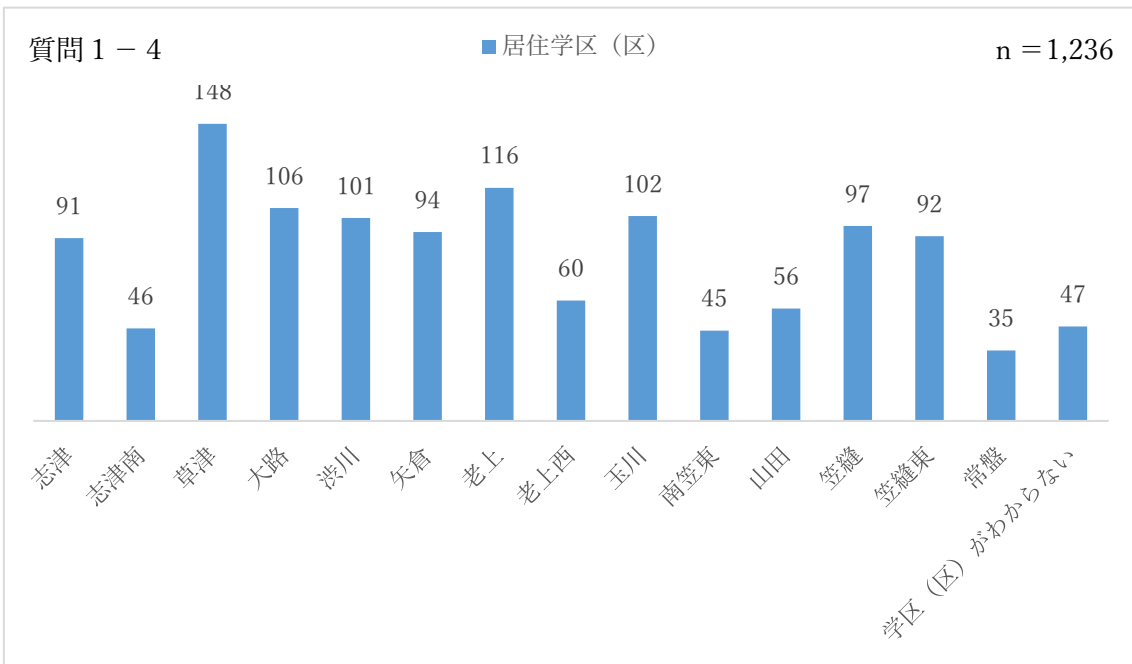
年代については50歳代が18.6%と一番多く、若い世代の回答率は比較的低いものの、主に働き世代である50歳代以下が52.5%、60歳代以上が47.5%から回答いただきました。



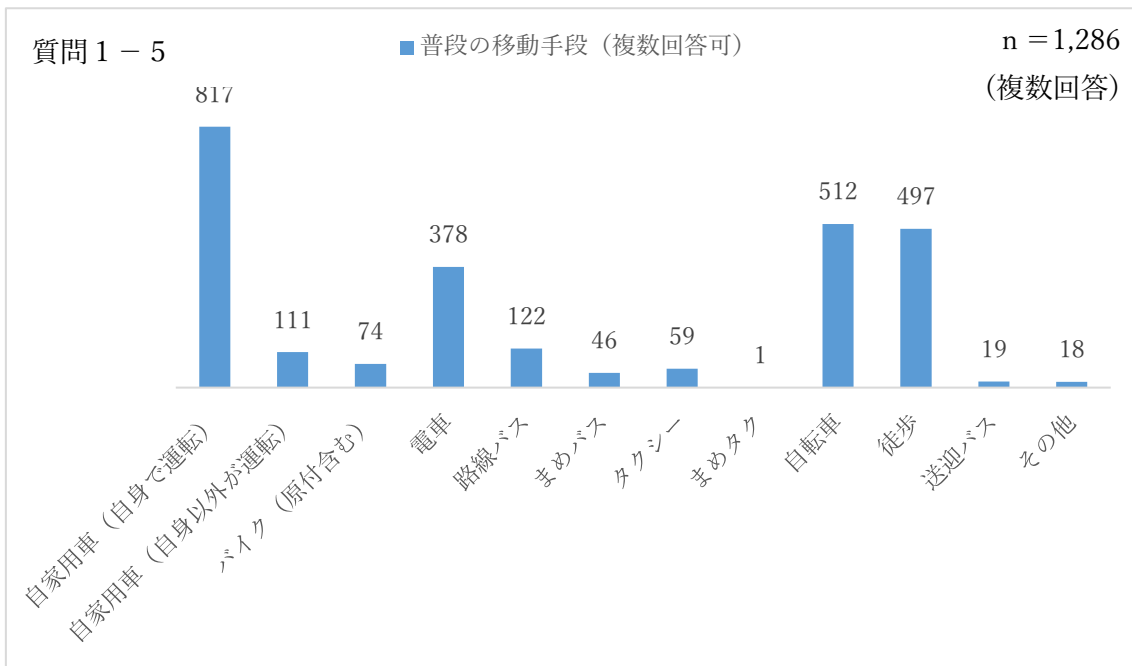
個人事業主やアルバイトを含む勤め人など、就労者の回答が66.2%を占めています。家族従業や専業主婦・主夫、その他、無職は32.2%、学生は1.6%でした。



男性が67.6%、女性が30.3%で、回答者の約3人に2人が男性でした。

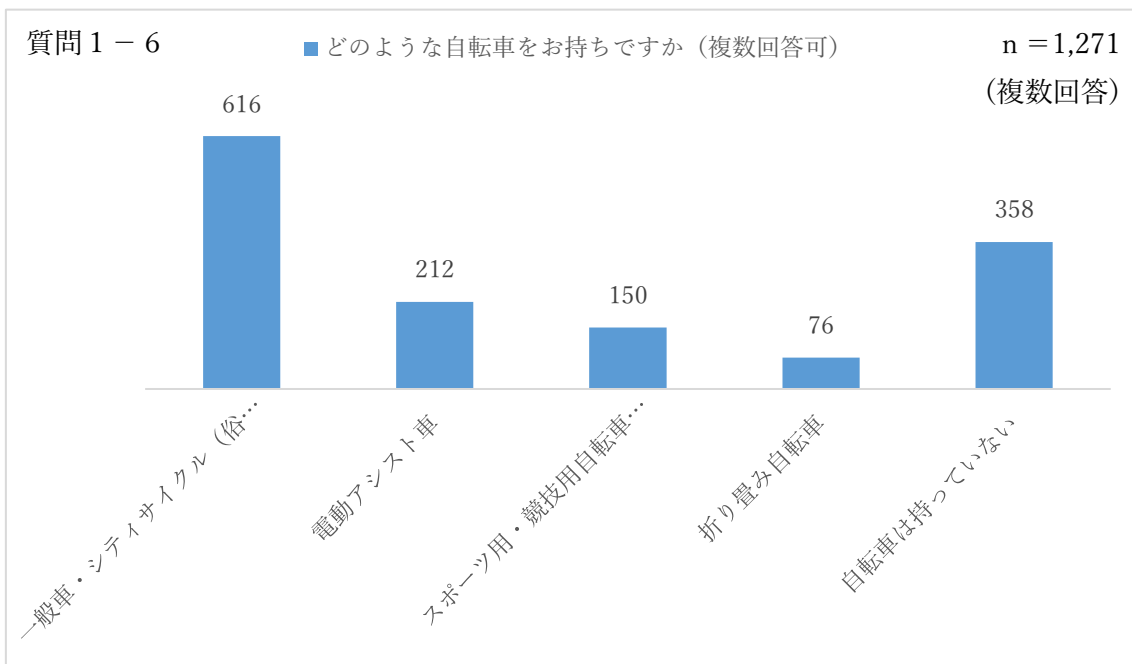


無作為抽出で送付しているため一概には言えませんが、草津市全体の人口構成と比較すると、志津学区が少し低く、草津学区が少し高くなっていますが、概ね人口構成と近い回答率でした。



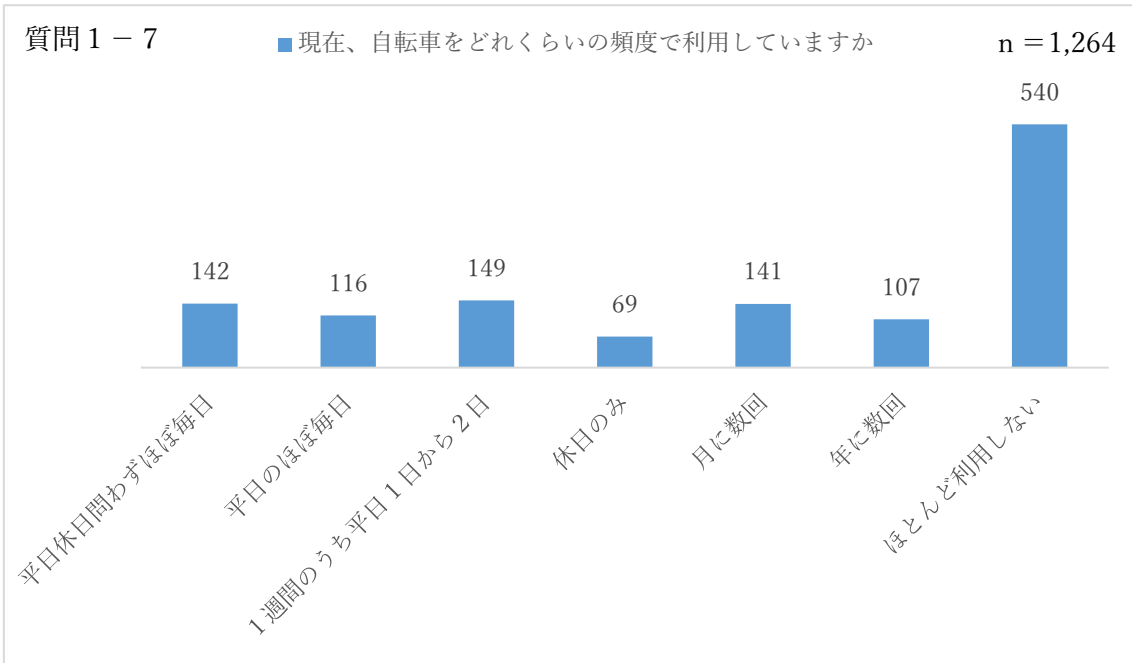
自身で自家用車を運転することを普段の移動手段の一つとしている人が63.5%を占め、車社会であることが見て取れます。電車は29.4%、徒歩は38.6%でした。自転車は39.8%であり、約5人に2人が普段の移動手段に自転車を含んでいます。

また、その他として、車いすやカーシェア、レンタカーといった回答もありました。



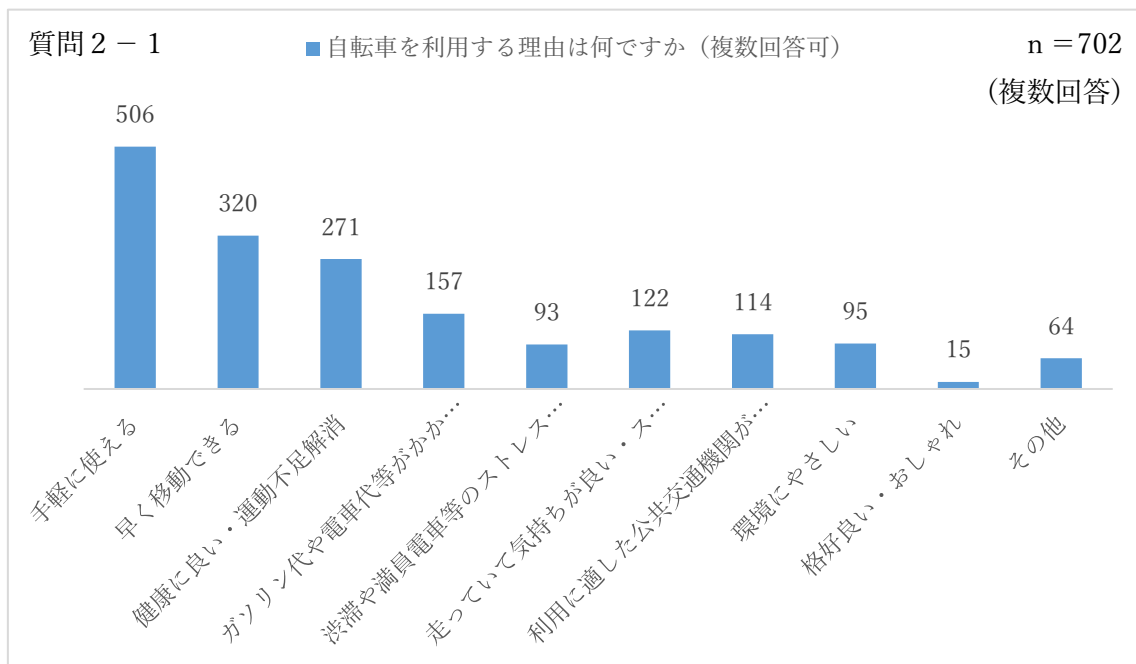
71.8%が何かしらの自転車を保有していました。そのうち、58.4%が一般車やシティサイクルで、電動アシスト車を含めると78.6%となり、普段使いの車両の所有率が高いことが伺えます。男性と女性で所有率に差はありませんが、スポーツ用自転車は男性22.3%に対し、女性は3.6%と低い所有率であり、逆に電動アシスト車は男性20.8%に対し、女性は29.6%と高い所有率でした。

また、自転車を保有している人のうち、13.4%が複数種別の自転車を保有しています。



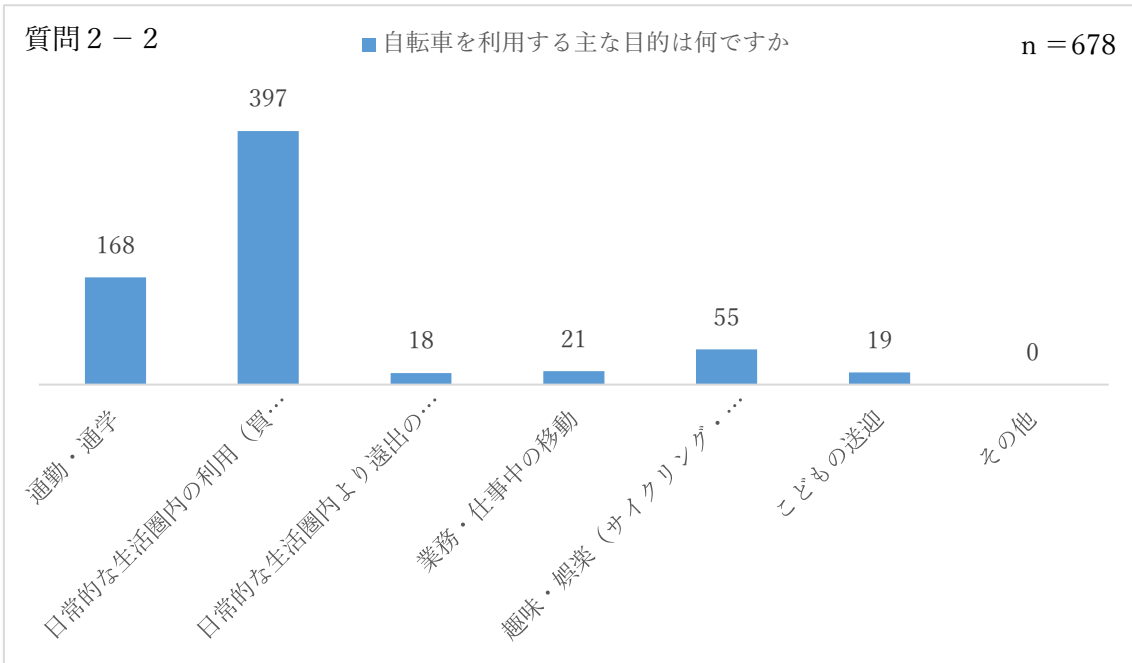
48.8%が月に数回以上利用されており、41.5%がほとんど利用されていません。利用頻度について、性別や年齢による差はあまり見られませんでした。ただし、平日休日を問わずほぼ毎日利用する人については70歳代が最も多く、次いで80歳以上でした。

なお、質問2については「ほとんど利用しない」以外の人が回答の対象となります。

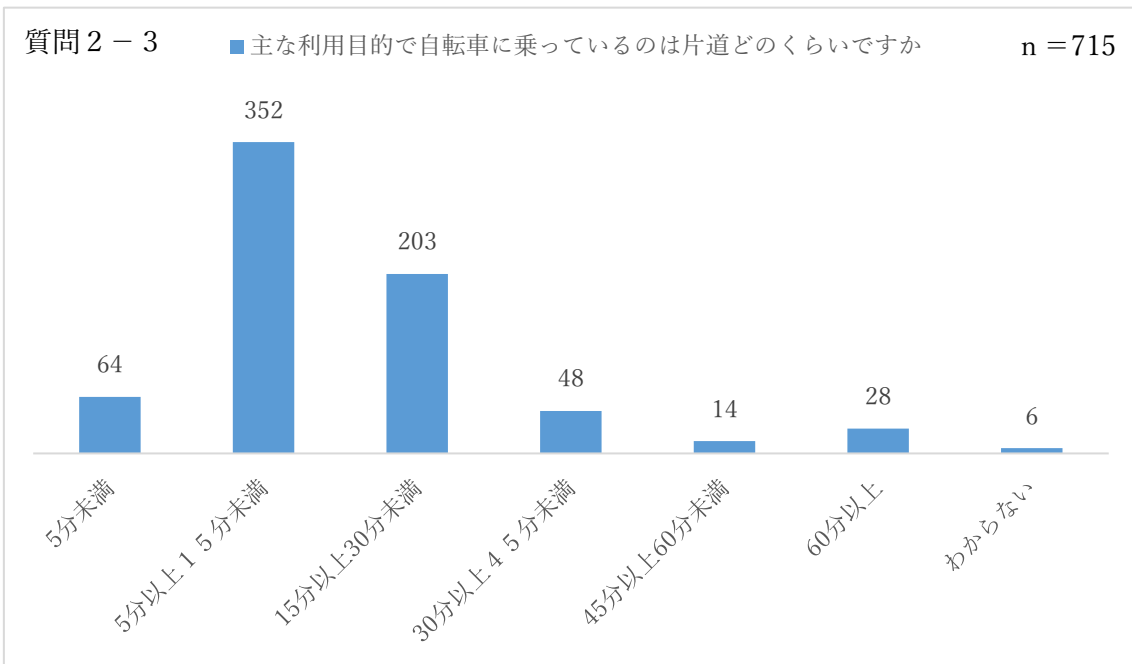


「手軽に使える」が72.1%で最も多く、「早く移動できる」が45.6%、「健康に良い・運動不足解消」が38.6%でした。持続可能な社会を目指す中で、13.5%が「環境にやさしい」と回答されました。

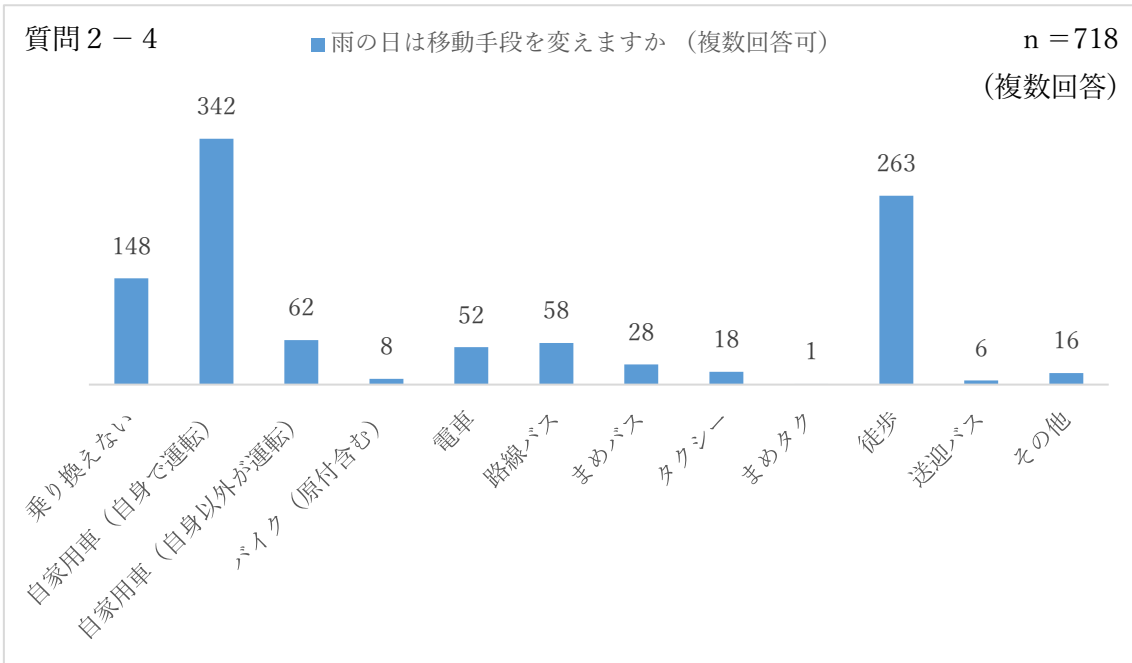
また、その他として、行先に駐車場がない、駐車料金が安い、運転免許がないといった回答もありました。



58.6%が日常的な生活圏内で利用されており、通勤・通学が24.8%、趣味・娯楽としての利用が8.1%でした。

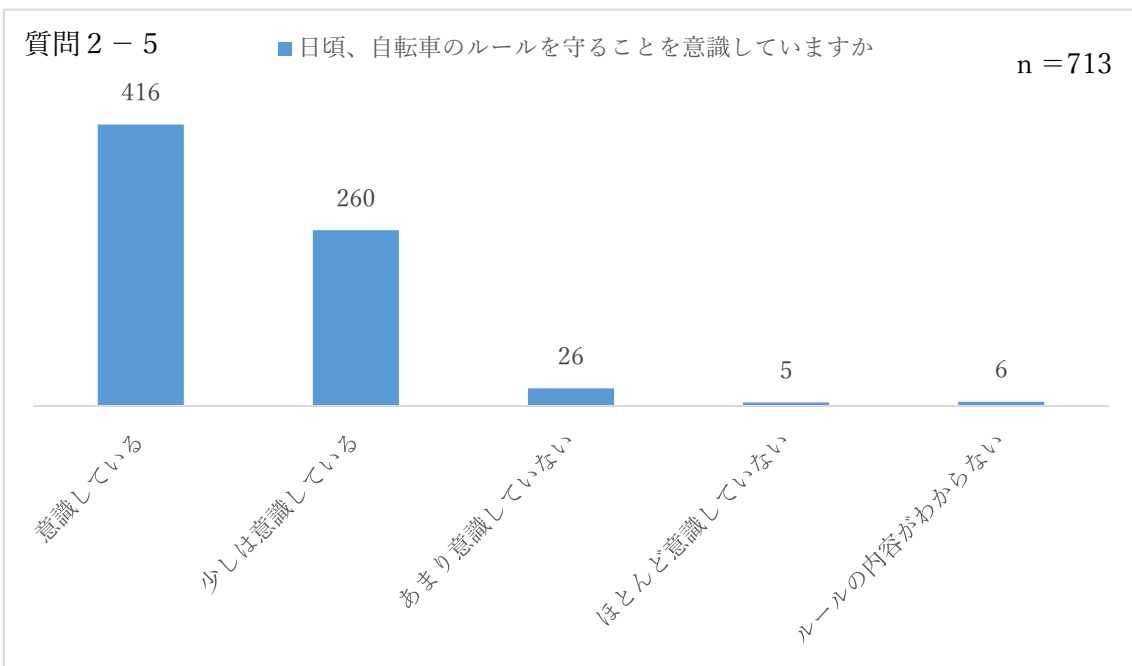


30分未満の利用が86.6%を占め、中でも5分以上15分未満の利用が49.2%でした。なお、3.9%が60分以上利用されています。



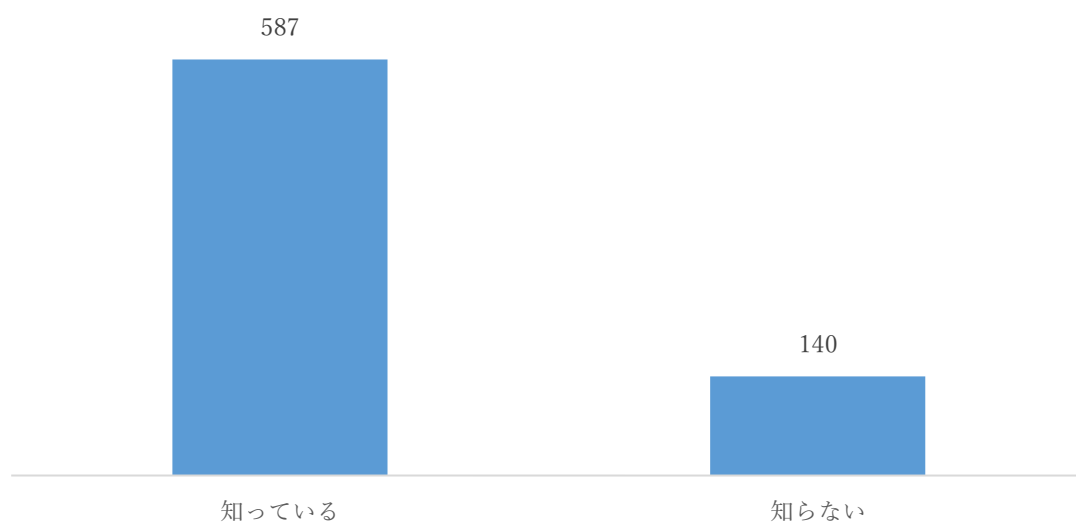
雨の日でも20.6%が自転車を利用されますが、56.3%は自家用車に、36.6%は徒歩に変更されます。

また、その他として、雨の日は外出されないといった回答がありました。



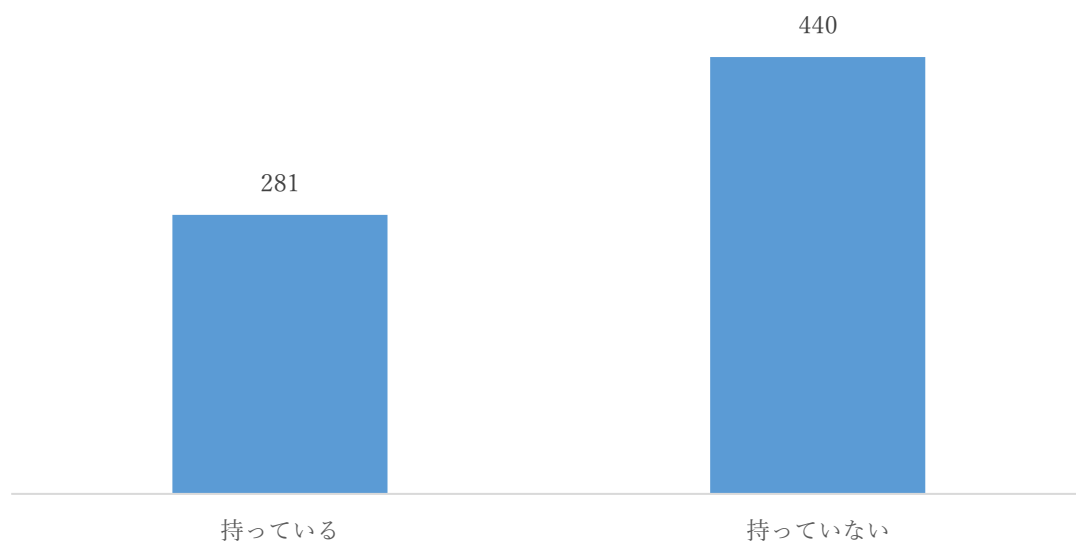
「意識している」「少しは意識している」との回答が94.8%を占め、大多数の人がルールを守ろうとしていますが、意識していない人やルールの内容がわからない人もいることから、啓発や教育が必要です。

質問2-6 ■ 令和8年4月から自転車の取締りが強化されることを知っていますか n = 727

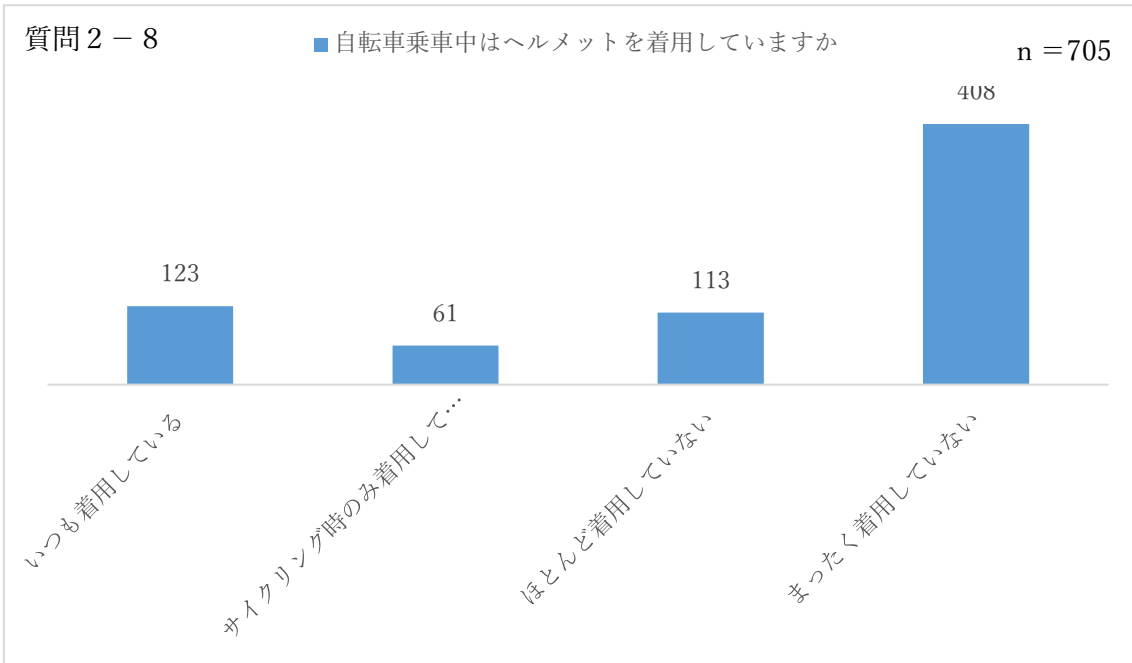


80.7%が取り締まり強化を知っていました。年齢別で見ると、50歳代以下が多少低い認知率であり、特に20歳代と40歳代の認知率は70%を下回っていました。交通ルールの改正については、目に触れる機会が多くなるよう、継続した啓発が必要です。

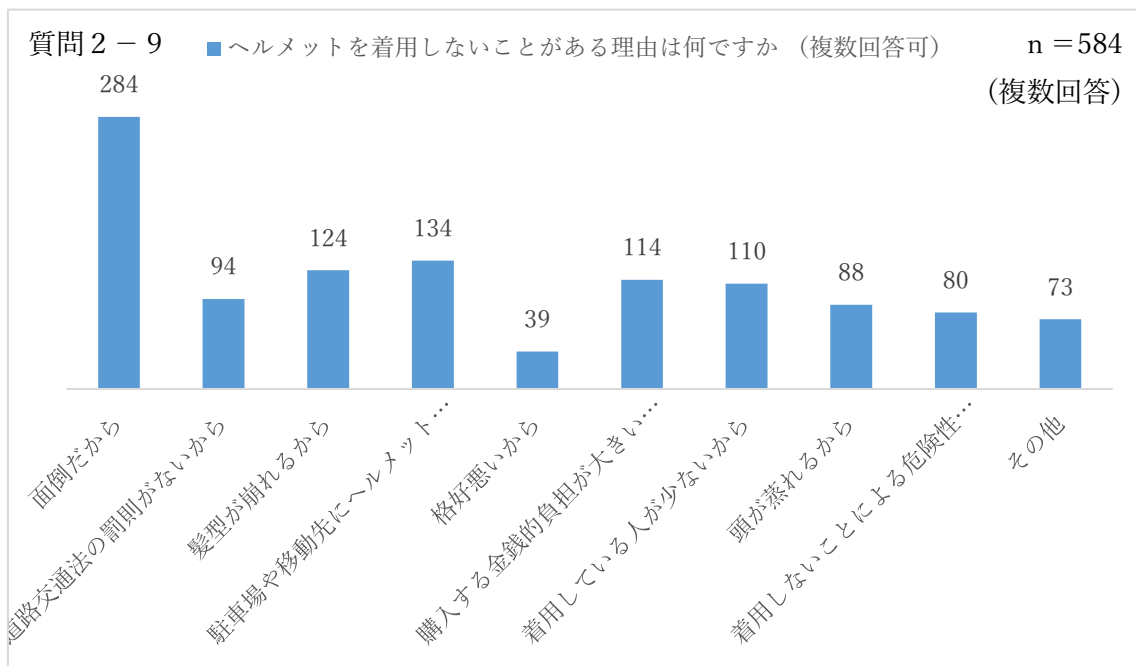
質問2-7 ■ 自転車用ヘルメットを持っていますか n = 721



61.0%がヘルメットを持っていませんでした。年齢による大きな差はみられませんでした。50歳代以下の所有率が多少低くなっています。自転車乗用中の交通事故で亡くなられた方の約5割が頭部に致命傷を負っており、ヘルメットを着用していなかった方の死傷・重傷の割合は着用していた方に比べて約1.7倍高くなっていることなど、自転車乗用中の頭部を守ることの重要性を啓発していく必要があります。

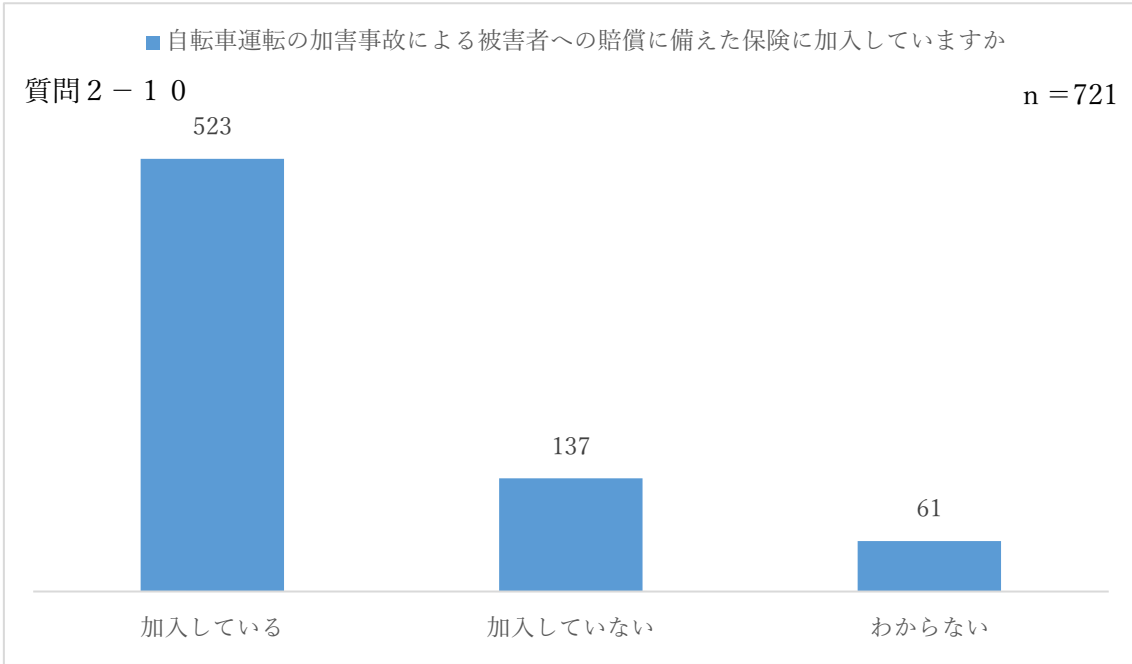


「いつも着用している」は17.4%でした。年齢による大きな差はみられませんでした。まったく着用していないと回答した人は40歳代以下が少し多くなっています。令和7年6月に警察庁により実施された自転車乗車用ヘルメット着用率調査では、全国平均21.2%に対し、滋賀県の着用率は14.2%と低い状況にあり、啓発が必要です。

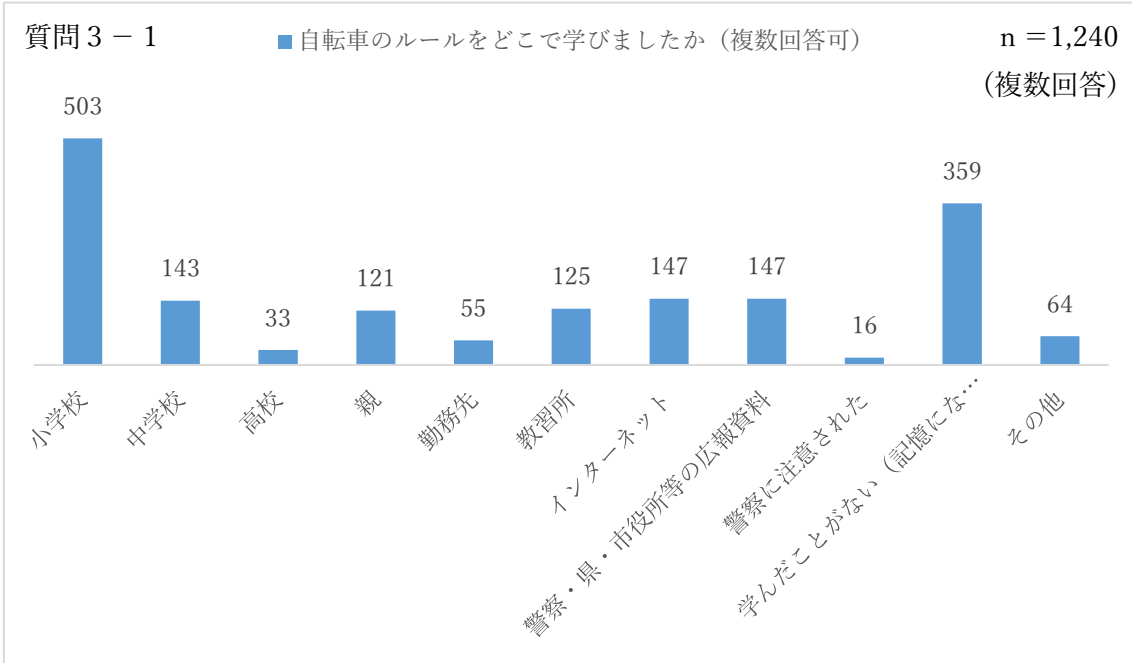


48.6%が「面倒だから」着用していませんが、習慣化することで着用に結び付けることが重要です。また、22.9%が「駐車場や移動先にヘルメット保管場所がないから」、19.5%が「金銭的負担が大きい」と回答しており、駐車場に保管場所を設けることや、購入補助制度を設けることは有効な取組となる可能性があります。

また、その他として、夏は庇・冬は防寒の帽子を被りたい、重い、近距離の移動だから、頭の形に合うものがない、補聴器がつけられなくなるといった回答がありました。

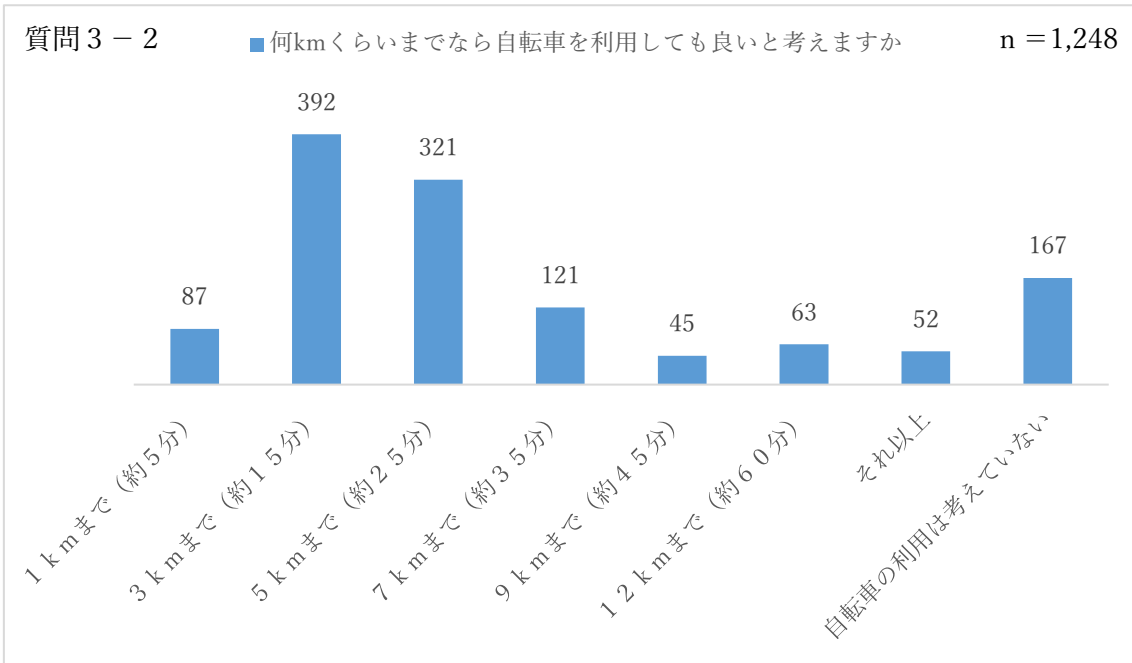


72.5%が保険に加入されていました。年齢で見ると、加入されていない人は70歳代が最も多く、次いで80歳以上でした。県の条例により、自転車小売業者は自転車購入者に損害賠償保険等の加入に関して情報提供をすることが義務化されていますが、70歳代以上の人は新たに自転車を購入することが少ないと思われ、また、新たに保険に入ることが少ないと思われるため、こういった方に対し、事故を起こしてしまったときの賠償事例等の啓発を行う必要があります。

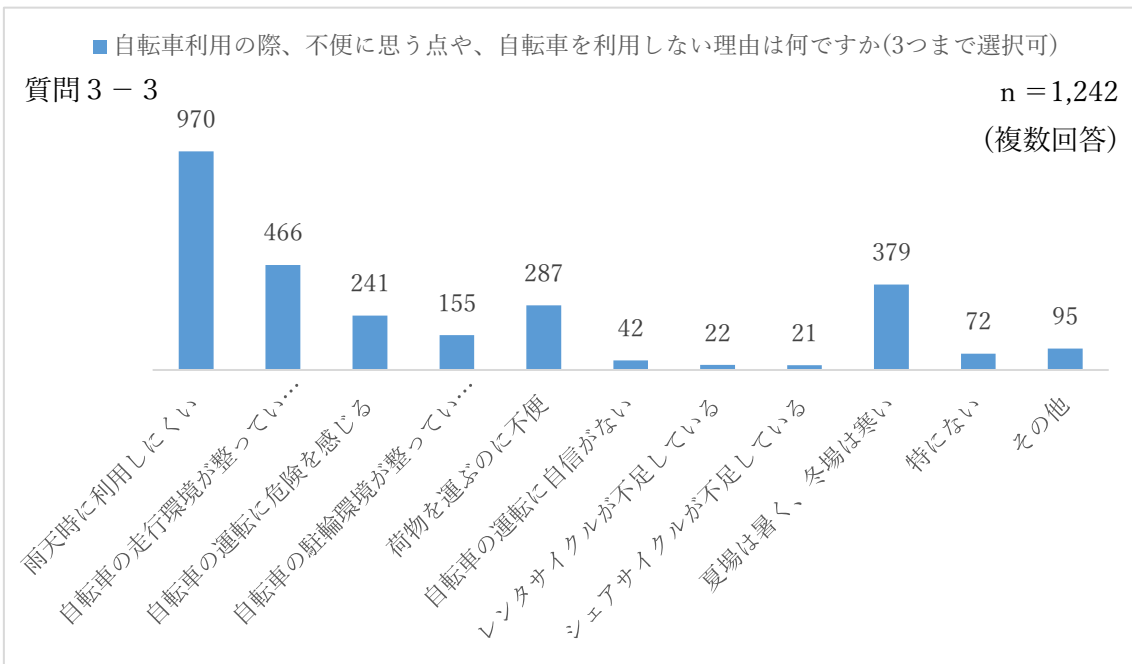


52.1%が小学校と中学校の義務教育期間中に自転車のルールを学んでいました。しかし、29.0%が学んだことがない（記憶にない）と回答されており、年代が高くなるにつれ学んだことがない人が多くなり、80歳代については55.4%が学んだことがないと回答されました。対象者を絞った学習の機会の提供と、きっかけづくりが必要です。

また、その他として、TV、自転車専門誌、新聞、自治会・老人クラブといった回答がありました。

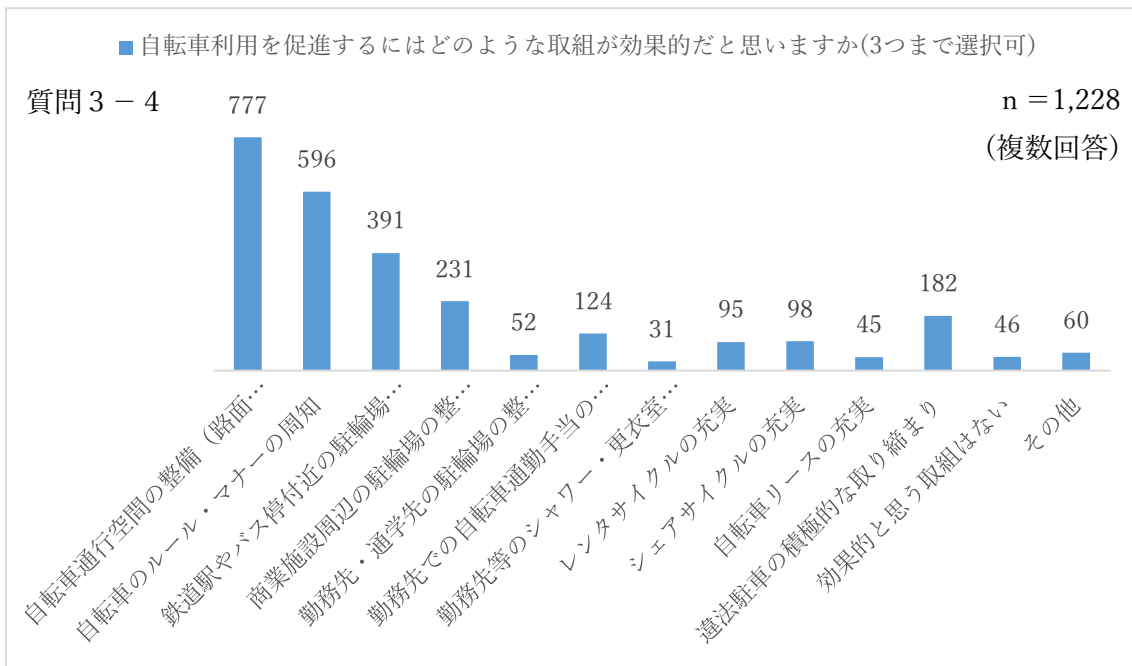


64.1%が5kmまでなら自転車を利用してもよいと考えており、これは公共交通やまちづくりを考えるうえで重要な視点となります。また、12.8%は9km以上自転車を利用しても良いと考えています。



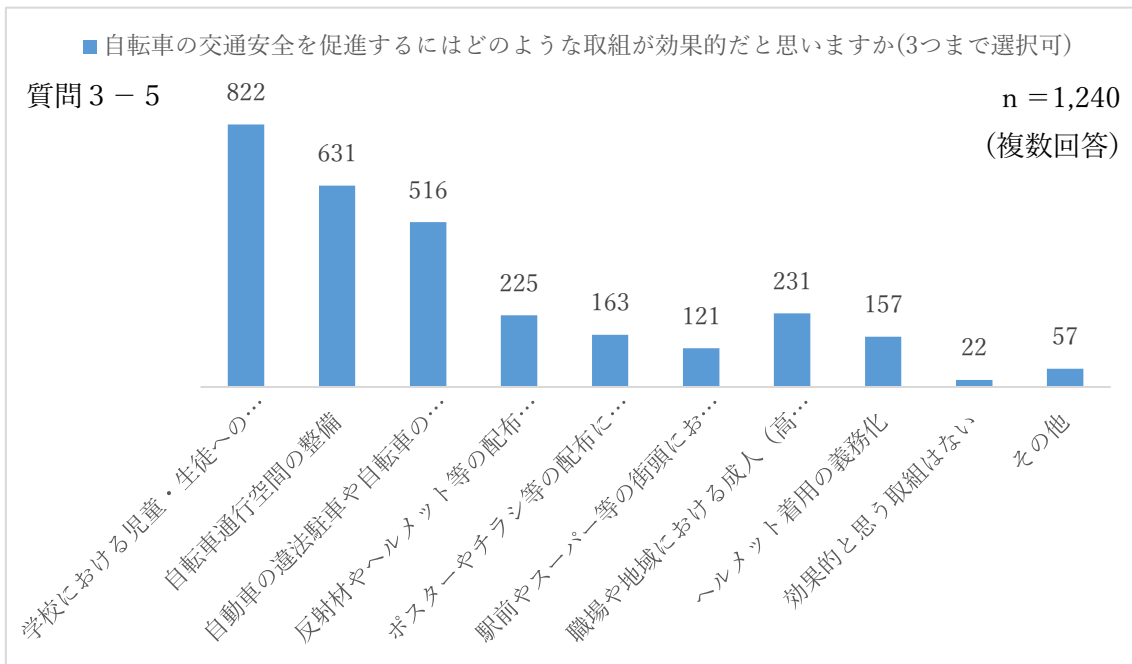
78.1%が雨天時に利用しにくいことを、37.5%が自転車の走行環境が整っていないことを不便に感じています。

また、その他として、駐輪にお金がかかる、服装が限られる、坂道が辛い、疲れる、高齢・障害・病気のため、車のマナーが悪いといった回答がありました。



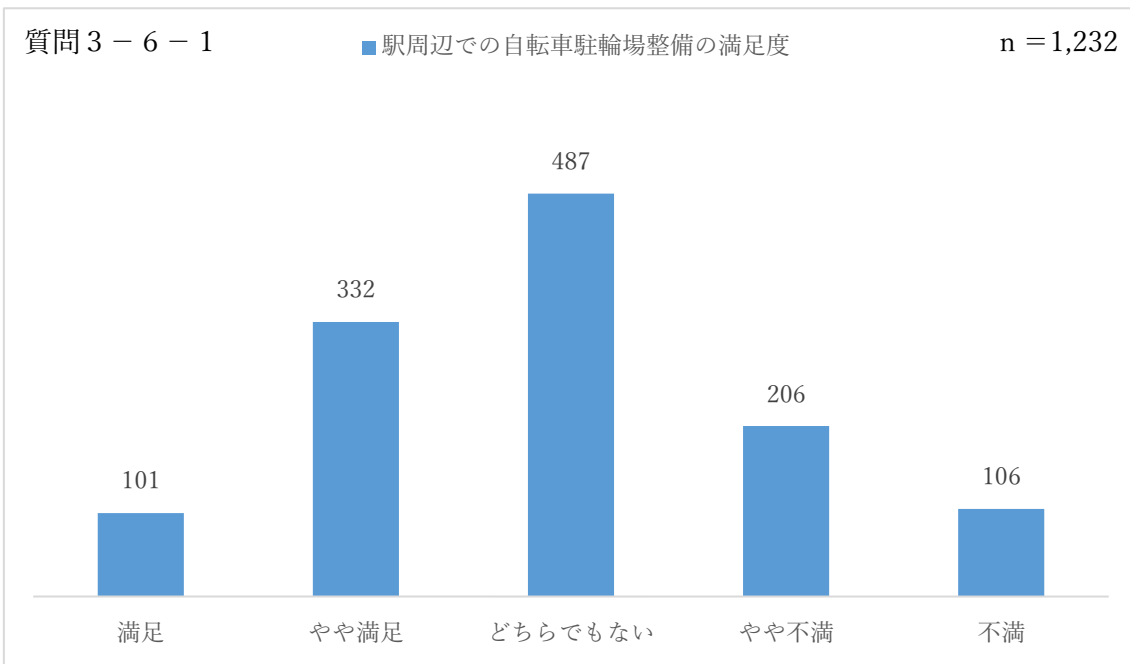
自転車通行空間の整備が63.3%で最も多く、ルール・マナーの周知が48.5%、鉄道駅やバス停付近の駐輪場の整備が31.8%でした。なお、レンタサイクル・シェアサイクルについては、充実することが利用促進に繋がると考えている人がそれぞれ約8%いました。

また、その他として、気軽に立ち寄れる・雨宿りできる場所のマップ化、パンクなど修繕箇所の増加、駐輪代金の無償化・引き下げ、電動自転車の購入補助、自転車盗難の積極的な取り締まり、自転車は危ないので推進してほしくないといった回答がありました。

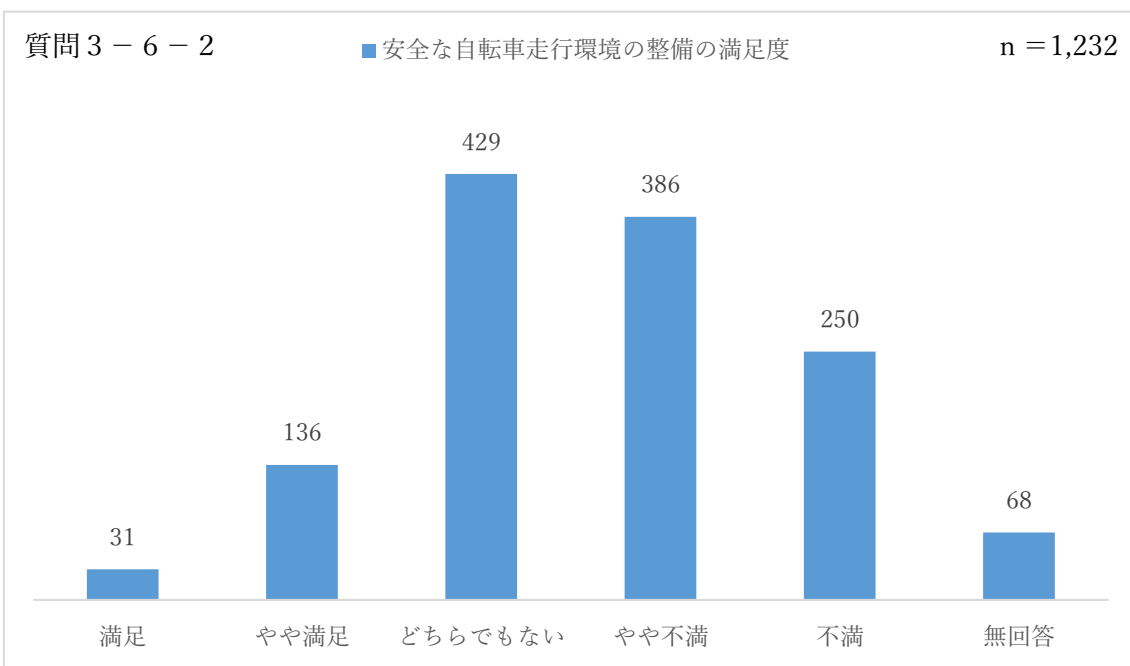


学校での交通安全教室が66.3%、自転車通行空間の整備が50.9%、自動車の違法駐車や自転車の無灯火など、交通違反に対する取締りが41.6%と高い回答でした。

また、その他として、免許制導入、自転車の交通違反罰則強化、講習の必須化、加害時の賠償リスクや被害時の人体損傷リスクの教育・啓発といった回答がありました。



「満足」「やや満足」が35.1%、「やや不満」「不満」が25.3%と、比較的満足されている人が多くなっています。草津駅では令和7年4月1日から建替え後の西口自転車駐輪場を供用開始し、南草津駅でも令和7年12月1日から新たに西口第2自転車駐輪場が供用開始されたところであり、今後の自転車需要の増減について注視が必要です。

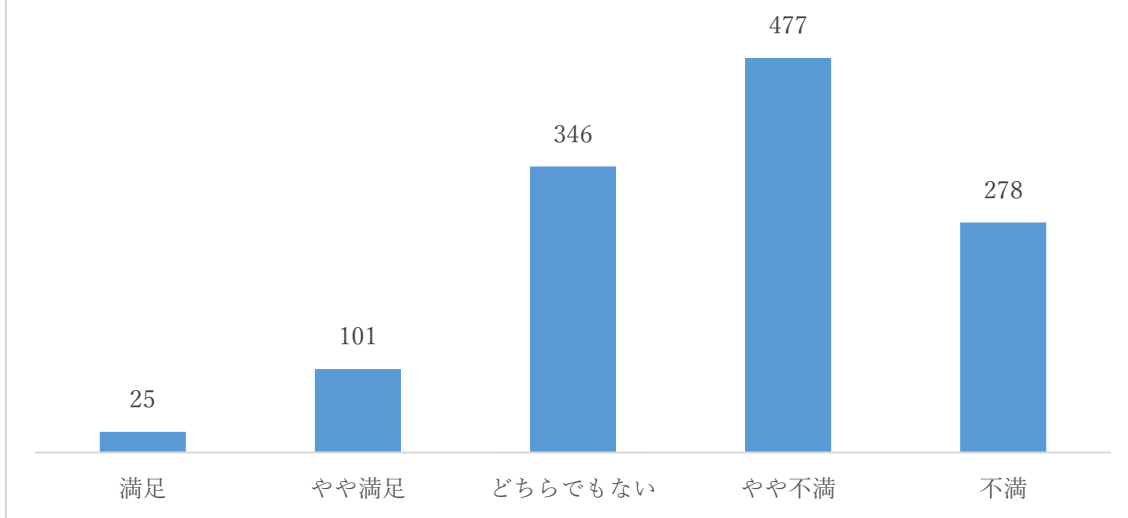


「満足」「やや満足」が13.6%、「やや不満」「不満」が51.6%と、はっきりと不満を感じている人が多くなっています。居住学区(区)に回答の大きな差は見られませんでした。質問3-3で、走行環境が整っていないことを不便に感じ、自転車を利用しない理由として挙げられている人が多いことや、質問3-4で、走行環境の整備が自転車利用の促進に繋がると考えている人が多いことから、重点的に取り組む必要があります。

質問3-6-3

■ 自転車利用者のマナーの満足度

n = 1,227



「満足」「やや満足」が10.3%、「やや不満」「不満」が61.5%と、満足度の中で最も不満度が高くなっています。令和8年4月1日から導入される自転車の青切符（交通反則通告制度）により、自転車のルールやマナーに対する意識が高まっていることから、出前講座や街頭啓発、広報での周知といった啓発活動を引き続き実施するとともに、警察や関係団体と協力して、自転車の安全で安心な利用の促進を図る必要があります。

質問4 質問3-6-1~3の理由や、自転車の利用に関する主なご意見

- ・スマホを見ながら運転する人や、信号無視、無灯火、逆走、一時不停止、並走、傘さし運転などの自転車の交通違反が多く、取り締まりや教育が必要。
- ・道路が自転車のことを考慮していない。自転車走行空間を整備してほしい。自転車が走るための車道が狭すぎる。歩道と自転車道の分離が必要。
- ・自転車への利用転換を促すなら、インフラ整備と教育が先。
- ・自転車も車両であるという認識が低く、ルールを守らない利用者が多い。
- ・バス等の公共交通の充実も重視してほしい
- ・アプリの活用による自転車を使うとポイントが貯まる取り組みがほしい。
- ・かがやき通りを猛スピードで走る自転車が危ない。
- ・シェアサイクルなど自転車を購入しなくても乗れる環境が必要。
- ・駅前や施設などで、自転車の空気入れの設置を増やして欲しい。
- ・こどもの自転車マナーがなっていない。
- ・学生の自転車マナーがなっていない。
- ・社会人の自転車マナーがなっていない。
- ・子育て世代の親の自転車マナーがなっていない。
- ・高齢者の自転車マナーがなっていない。
- ・自転車利用にも免許を導入してほしい。
- ・自転車の交通ルールの学習機会を充実させないまま、厳罰化に踏み切るのは順番が逆。
- ・自転車に乗る人と自動車ドライバー、歩行者の互いへの理解と思いやりが必要。
- ・自転車の交通ルールを義務教育に取り入れることと、大人（高校生以上への）自転車の道路交通法の学習の場の提供が必要。
- ・自転車もナンバープレートを導入してほしい。
- ・対面で自転車とすれ違う時、舌打ちや文句を言われるのは不快なので、おじぎや「ありがとう」のひと言が欲しい。
- ・駐輪場の違法放置バイク、放置自転車が多すぎる。
- ・自転車のイベント開催を希望。
- ・自転車の車道通行は危険を感じる。
- ・駐輪場を無料化してほしい。
- ・車道の凸凹が多い。
- ・ヘルメット着用を義務化すれば皆着用する。その際は助成金がほしい。
- ・外国人への交通ルール・マナーの交通安全教育があればよい。
- ・ヘルメット、保険加入の義務化を推進してほしい（自転車の購入時にチェックするなど）。

等(438人記述有)

9 アンケートおよび国次期計画を踏まえた市次期計画で取組の検討が必要な事項

①自転車通行空間の計画的な整備の推進

・自転車利用および自転車の交通安全を促進するためには走行環境の整備が必要であるとの回答が多く、現状の走行空間に不満を感じている人が多い状況です。国や県とも協力し、計画的な走行空間の整備に努める必要があります。

②道路利用者全体の安全意識醸成

・自転車利用者のマナー満足度が特に低く、世代を問わずマナーがなっていないとの意見が多数あり、自動車の自転車利用者に対するマナーの悪さについての意見もありました。出前講座や街頭啓発、広報での周知等の啓発活動を引き続き実施するとともに、警察等の関係団体と協力して、自転車の安全で安心な利用の促進を図る必要があります。また、在留外国人に日本の交通ルール・マナーを理解していただくための取組が必要です。

③ヘルメット着用の促進

・これまでからヘルメットの着用を推進してきましたが、約6割の人がそもそもヘルメットを持っていないことがわかりました。ヘルメットの着用が事故時の死傷・重傷の可能性を下げることや、安全規格・基準を満たした、通気性や防寒性、デザイン性の高いヘルメットがあることの周知を行うとともに、他市事例を参考にヘルメット購入補助を検討し、ヘルメットの購入・着用を促進するとともに、市営駐車場にヘルメット保管場所を設けることを検討します。

④通学時の安全確保等自転車の交通安全教育の推進

・自転車の交通安全を推進するには、学校における児童・生徒への交通安全教育が重要との回答が多く、学校・地元・警察などの関係機関と連携した教育が必要です。中学生の自転車通学においては、生徒会が作成したヒヤリはっと MAP を各種団体と共有し、街頭啓発等の継続した啓発を行います。また、警察庁が開設した「自転車ポータルサイト」では、ライフステージに応じた教材や、指導者向けの教材が公開されていることや、市で所有する教材を貸し出していることを周知し、交通安全教育の推進を図ります。

⑤レンタサイクル・シェアサイクルの促進

・レンタサイクル・シェアサイクルについては、充実することが自転車の利用促進に繋がるとの意見がありました。特にシェアサイクルは、令和8年度から大津市が本格事業として実施されるなど、ゼロカーボンシティの実現に向け、近年、気運が高まっています。本市でも令和8年度にびわこ文化公園都市でシェアサイクルの交通社会実験を予定していることから、導入に向けた検討を進めます。

⑥自転車を活用した健康づくりの推進

・本市では健幸都市を目指しており、自転車利用による運動を推進することは、健康寿命の延伸に繋がります。自転車利用による健康増進効果の周知を行うとともに、自転車のイベント開催等を検討します。